

業務用ナバナのリレー出荷栽培に適した品種の検討

～ ‘CR花かんざし’ と ‘CR華の舞’ でリレー出荷が可能 ～

1. はじめに

農業試験場では2017年に業務用ナバナの品種比較試験を行い、中生の‘CR花かんざし’と‘CR栄華’を有望品種に選定した(農試ニュース133号)。「CR花かんざし」は現場に導入が進んでおり、生産者からは品質・収量面で高い評価を受けている。

しかし、近年の異常気象により収穫期間が安定しないという問題があり、複数品種の組み合わせによる安定的なリレー出荷が求められている。

そこで、本研究では、「CR花かんざし」と同日播種でも収穫時期の分散が可能な多収品種について調査を行った。

2. 材料および方法

供試品種として、早生品種の‘寒咲21号’(サカタのタネ)、「CR春華’(カネコ種苗)、「CR京の春’(丸種種苗)、中生品種の‘CR栄華’(サカタのタネ)、「CR花かんざし’(丸種種苗)、中晩生品種の‘CR華の舞’(丸種種苗)、晩生品種の‘花ぐるま’(丸種種苗)を用いた。

2019年9月11日に与作N-150を充填した128穴セルトレイに播種し、10月3日に畝幅100cm、株間35cmの一条植え(2,857株/10a)で定植した。収穫期間は頂花の収穫から規格品1本重の平均値が4gを下回るまでとした。

表1 品種別の収穫期間

早晩性	品 種	収穫開始日	収穫終了日
	寒咲21号	12月9日	2月23日
早生	CR春華	11月23日	1月20日
	CR京の春	11月28日	1月20日
中生	CR栄華	12月14日	3月6日
	CR花かんざし	12月8日	2月28日
中晩生	CR華の舞	12月29日	3月2日
晩生	花ぐるま	12月28日	3月6日

表2 品種別の収量および秀品率

品種名	1株あたり収量 (g/株)		秀品率(%)
	規格品	規格外品	
CR花かんざし	198.1	70.3	74
CR華の舞	214.8	26.5	89
花ぐるま	194.8	110.9	64

3. 結果

1) 品種別の収穫期間(表1)

‘寒咲21号’は‘CR花かんざし’と収穫開始日に差がなく、分散効果は認められなかった。‘CR春華’、「CR京の春’は‘CR花かんざし’より収穫終了日が1ヶ月以上早く、需要期(2月～3月上旬)に収量を得られなかった。‘CR栄華’は1週間、「CR華の舞’、「花ぐるま’は3週間収穫開始日が遅かった。

2) 時期別の規格品収量(図1)

‘CR栄華’は‘CR花かんざし’より収穫開始日が1週間遅かったものの、収穫時期の分散効果は認められなかった。‘CR華の舞’、「花ぐるま’は‘CR花かんざし’の収量が減少する1月上旬から収量が増え始め、その後の低収量を補うことができたことから、分散は可能であると考えられた。

3) 品種別の収量および秀品率(表2)

‘CR華の舞’は‘CR花かんざし’より規格品収量が多く、秀品率も高かった。‘花ぐるま’は規格品収量・秀品率で‘CR花かんざし’を下回った。

4. おわりに

‘CR花かんざし’と‘CR華の舞’を同日播種することで、需要期に高収量を保ちながら安定的なリレー出荷が可能であると考えられた。

(栽培部 嶋本旭寿)

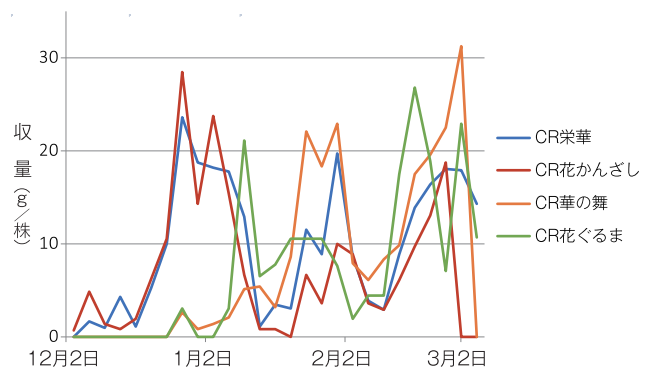


図1 時期別の規格品収量